

1 事業名

平成29年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「体験活動支援セミナー」 ～ドキドキ わくわく ボランティア・冬～

2 趣 旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期 日 平成30年1月13日（土）～14日（日）

4 参加者 20名（高校生8名，大学生12名）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内 容

（1）日程

日時	9:00		9:15		9:30		10:00		11:45		13:00		13:30		14:00		15:00		15:30		17:30		20:15		21:00		21:30		22:30	
13日 (土)		参加者受付	開会行事	講義 「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容についての打合せ		昼食	小学生受付	はじめの会	アイスブレイク	荷物移動	冬をもって帰ろう♪ ～雪遊びの準備～	つくっっちゃお♪ ～0-NI-GI-RI～		ふりかえり	就寝指導	ふりかえり	就寝準備	就寝											
	6:30		7:00		7:30		8:45		9:00		12:30		13:30		14:00		14:30		15:30		16:00									
14日 (日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・準備	退所点検	めっちゃ雪やねん♪ ～雪遊びで心も体もポッカポカ～		昼食	アンケート記入	おわりの会	小学生解散	演習 「活動支援と児童理解」	閉会行事	参加者解散																

（2）・指導者

国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	佐々木 真里子
	企画指導専門職	工 藤 祐 幸
	事業推進係主任	藤 根 智 子
	事業推進係	山 崎 啓 陽
・指導補助	法人ボランティア	23名

（3）企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、「テンパークちゃれんじくらぶ・冬」の企画・運営体制を構築した。その際、支援セミナー参加者に対する支援を行うことができるように法人ボランティアの4名を統括リーダーとして配置した。また、支援セミナー参加者はグループリーダーとして、子供に近い立場で関わる体験ができるように企画した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学、高等学校、報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

「体験活動支援セミナー・秋」の反省を受け、参加者がより主体的に事業に参加できるように、事前に活動内容及び運営補助・活動支援をまとめた「運営補助と活動支援の概要」を送付し、2日間の活動の見通しがもてるようにするとともに意識の向上を図った。さらに、日程に社会教育活動実習生のレポート作成の時間と法人ボランティアを交えた一般参加者のふりかえりの時間を位置付け、事業後すぐに2日間の活動を振り返る時間を設けることで、参加者一人一人が自分なりの成果と課題を明らかにし、今後のボランティアとしてのスキルアップにつながるようにした。また、高校生ボランティアの育成につなげることができるよう、8名の高校生のグループリーダー編制に当たっては法人ボランティアとペアにしたり、人数の少ない生活・活動班の担当にしたりするなど、充実したセミナーになるように配慮した。

加えて、1日目の講義の後の「活動内容についての打合せと説明」では、講義の内容をさらに具体的な場面として説明を進めていった。ワーキンググループで作成した活動計画書を、セミナー参加者に配付し、それを基に活動内容に関わる留意点や支援についての説明をした。さらに、職員から補足説明をすることで、活動計画に対する共通理解の徹底を図り、支援の仕方について具体的なイメージをもてるようにし、参加者が主体的に活動できるように配慮した。そして、1日目のふりかえりの時に、自分で立てた参加目標や目標達成のための手立て、担当する班の子供たちの様子で気付いたことなどを、4つのグループに分かれて話し合う時間を設定した。その話し合いには統括リーダーが加わり、出てきた疑問点などについてアドバイスしたり、これまでの経験から得た知識や技術を伝えたりする場とした。

8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、初めの頃は不安もあったが、グループリーダーとして子供と深く関わり、真剣に向き合う中で、子供たちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。事前に活動内容や運営補助・活動支援の内容に対する具体的なイメージをもって事業に参加したことで、秋の事業よりも主体的に、そして柔軟性をもって行動している姿が多く見られた。さらに、「活動を通して、どのような対応をすれば子供たちが喜んでくれるのか、どの程度支援してあげればよいかなどを考えながら行動に移すことができ、とても勉強になり、幼児教育などの分野にも興味をもてる機会となった。子供一人一人に合った接し方などにも深く考えるきっかけとなったので、機会があればまた参加してみたい。」という声も聞かれ、参加者自身が自分の変容を認識することができ、次の活動への意欲付けになった。

また、今年度新規登録した法人ボランティアの中で、運営にも参加してみたいというボランティア2名が、ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトにおける企画会議、事前準備や前泊しての準備に参加した。新規登録のボランティアにも運営側に参加できる機会を広げていくことで、継続的な育成につながっていくと考える。

9 今後の課題

学びの連続性という観点から、ボランティア養成講座「How To ボランティア」における研修内容を起点とする企画事業として、その研修内容とのつながりを意識した活動における場の設定や時間配分、説明の仕方など、参加者がより主体的に取り組める企画にしていけるための工夫が必要である。更には、子供たちに感動を与える活動にするために企画段階での指導の在り方を検討していかなければならない。

また、先輩ボランティアの経験値を新規ボランティアに伝え、継続していくために、新規ボラン

ティアを企画段階からワーキンググループに組み込む手立てを講じていく必要がある。



講義「事業運営及び活動支援についての心構え」



活動計画書の共通理解



子供たちの情報の共通理解

・テンパークチャレンじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

